

金沢区高潮ハザードマップ

高潮浸水想定区域(想定最大規模※)

この高潮ハザードマップは、高潮による氾濫が発生した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の高潮」による氾濫を前提として予測したものです。

風水害時における避難場所について

- ◇避難の際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。
- ◇2か所以上の避難場所へ避難できるよう、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。
- ◇すでに浸水が始まっている場所などには、無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところに避難してください。

金沢区では、風水害時の避難場所として、下記の施設を優先して開設します。

<横浜市南部に土砂災害警戒情報が発表された場合>

西柴中学校、金沢谷東小学校、大道小学校、六浦地区センター、関東学院大学 横浜・金沢八景キャンパス(12号館)

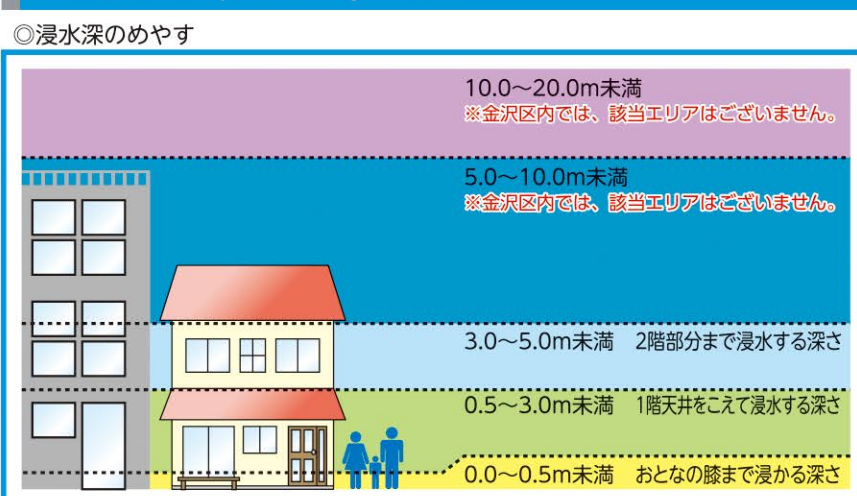
No.	避難場所	所在地	位置
1	西柴中学校(体育館)	西柴1-23-1	E-4
2	金沢谷東小学校(体育館)	金沢谷東2-12-1	D-5
3	大道小学校(体育館)	大道2-3-1	C-7
4	六浦地区センター	六浦5-20-2	C-7
5	関東学院大学 横浜・金沢八景キャンパス(12号館)	六浦東1-50-1	D-8

<特別警報の発表が想定される場合>

上記5か所に加えて、富岡小学校、能見台小学校、並木中学校、金沢区役所

No.	避難場所	所在地	位置
6	富岡小学校(体育館)	富岡西7-13-1	D-3
7	能見台小学校(体育館)	能見台3-32-1	D-4
8	並木中学校(体育館)	並木3-4-1	F-4
9	金沢区役所	泥亀2-9-1	D-6

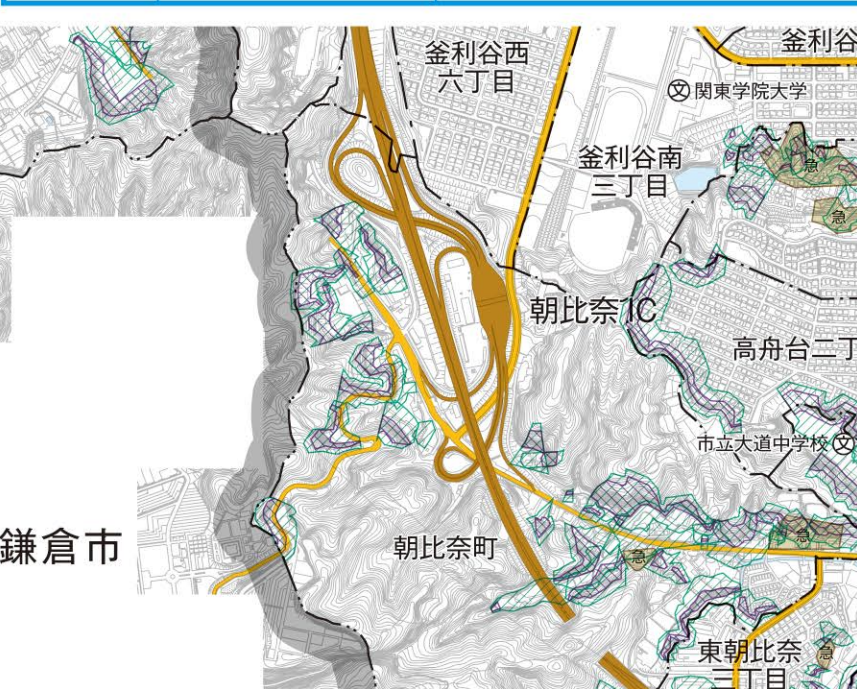
凡例 (Explanatory Notes)



※内水ハザードマップの浸水深とは、浸水程度が異なります。

○避難する際に注意する箇所

	アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある箇所(進入すると危険なため、緊急時の通行は控えてください)
	急傾斜地崩壊危険区域	崩壊により相対的危険者に危害が生ずるおそれがある急傾斜地と、崩壊が助長・誘発されるおそれがあるために切土・盛土などの一定の行為を制限する必要がある土地です。
	土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、被害が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
	土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずると認められる区域であり、危険の周知、管理規制等の実施が行われます。
	都県界	
	市区界	
	町丁目界	
	J R線・駅	
	私鉄線・駅	
	市営地下鉄線・駅	
	高速道路、有料道路	
	主要道路	
	避難場所	
	雨量観測所	
	水位観測所	
	河川監視カメラ	
	避難を阻害する鉄道や高速道路、バイパスのような構造物を横断するために有効な歩道橋や陸橋を記載	



高潮浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの?

この高潮浸水想定区域の範囲や深さは、国内観測史上、最も大きな台風が、沿岸に最悪の被害を与える経路で襲来した場合をシミュレーションにより予測したものです。

【想定する台風】
・中心気圧: 室戸台風(910hpa)・暴風半径: 伊勢湾台風(75km)・移動速度: 伊勢湾台風(73km/h)

なお、この高潮浸水想定区域は、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮してません。したがって着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

※神奈川県ホームページ
(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/jy2/takashio/tokyo-bay.html>)



出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令2建都計第9031号 横浜市建築局都市計画基本図データ(地図レベル2500)により作成
河川	横浜市道路局 河川図
浸水想定区域	神奈川県 高潮浸水想定区域図(平成31年4月指定)
急傾斜地崩壊危険区域	横浜市建築局 急傾斜地崩壊危険区域(令和3年2月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域(令和3年2月現在)
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域(令和3年2月現在)

3 高潮の発生について

高潮とは

台風や発達した低気圧が通過する際、海面(潮位)が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。

高潮は、主に「気圧低下による吸い上げ効果」と「風による吹き寄せ効果」が原因となって起こります。また、満潮と高潮が重なると高潮水位はさらに上昇し、大きな災害が発生しやすくなります。

① 気圧低下による吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用した結果、海面が上昇します。

気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1センチメートル上昇するとされています。

例えば、それまで1000ヘクトパスカルだったところへ中心気圧950ヘクトパスカルの台風が来れば、台風の中心付近では海面は約50センチメートル高くなり、そのまわりでも気圧に応じて海面は高くなります。

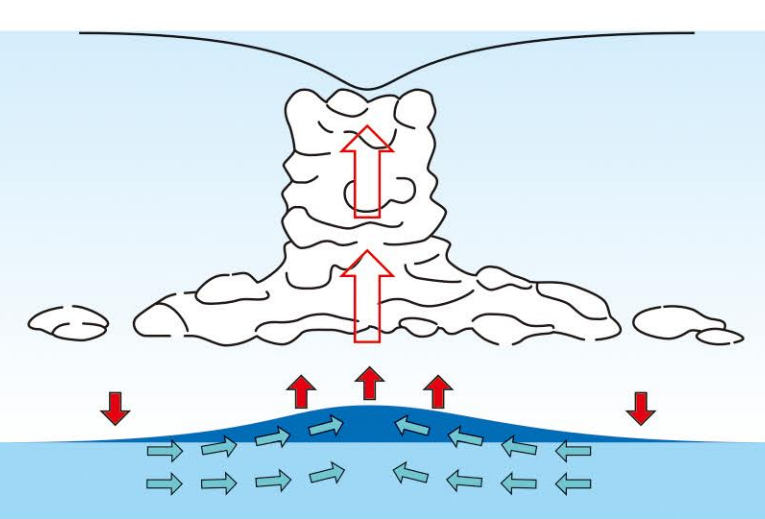


図-1 吸い上げ効果

国土交通省「高潮発生メカニズム」を元に作成
(https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.html)

② 風による吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。また、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を助長させるように働き、特に潮位が高くなります。

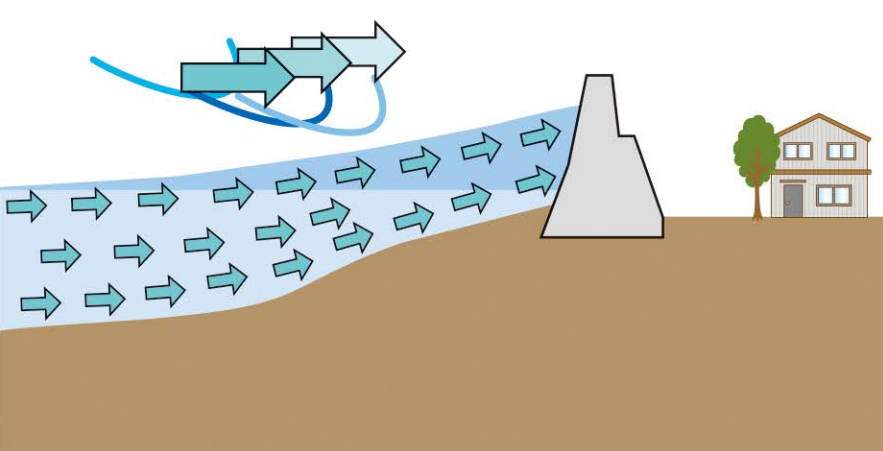


図-2 吹き寄せ効果

国土交通省「高潮発生メカニズム」を元に作成
(https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.html)

想定条件

中心気圧 910hpa、暴風半径 75km、移動速度 73km/hの台風

避難情報がでたら

～避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください～

警戒レベル	発令表	とるべき行動	避難情報(横浜市)
警戒レベル5	緊急	【命の危険 直ちに安全確保!】 ●災害が発生・切迫しており、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保
警戒レベル4	横濱市	警戒レベル4までに必ず避難! 【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ●(1)情報の入手方法と日頃の備えの避難の考え方も読みください。 ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くのある安全な場所や、自宅内のより安全な場所へ避難する。 ●天候や水位の急変時には、高齢者等避難を必ず避難指示を発令することがあります	避難指示
警戒レベル3	横濱市	【危険な場所から高齢者等は避難】 ●避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、避難場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。	高齢者等避難
警戒レベル2	気象庁	【自らの避難行動の確認】 ●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の把握と、避難手段の確認をする。	-
警戒レベル1	気象庁	【災害への心構えを高める】 ●防災気象情報等の最新情報に注意する。	-